

# 平成 19 年度 教育学部 FD シンポジウム報告

日時：平成 19 年 12 月 6 日（木） 14：30～16：00

場所：教育学部大会議室

テーマ：「総合演習」の授業改善

## 1. 「総合演習」の実践報告

① 幼児教育の事例

深田昭三（幼児教育講座）

② 理科教育・家政教育・生活環境コースの事例

佐野 栄（理科教育講座）

③ 英語教育の事例

山口智子（英語教育講座）

## 2. 「総合演習」に関するアンケート結果の報告

## 3. シンポジウム「総合演習」の授業改善に向けて

シンポジスト：深田昭三 佐野 栄 山口智子

参加者：53 名（シンポジスト、司会等含む）

他学部：4 名 農（2） 医（1） 工（1）

アンケート：33 名から回収



事例報告 1 (深田先生)



事例報告 2 (佐野先生)



事例報告 3 (山口先生)



シンポジウム(左から山口先生、佐野先生、深田先生)

## アンケート結果

### I. 「総合演習」の改善について、自分にとって役立ったこと。

- 授業を複数教員で担当し、学生のグループを指導する支援。
- 県外の禅寺が行っている国際貢献の場に入って「修行」する徹底
- 教育目的、到達目標までよく考えられていました。
- 実体験、話し合い、学生の自発性を受け止めていて感動しました。
- 不可打線エシの授業紹介がたいへんわかりやすく、総合演習について自分なりに考えるきっかけになりました。
- 多様な事例が見聞できた。
- 教員のかかわり方がよくわからなかったので参考になった。
- グループ学習を担当するだけだったので、他教科の取り組み方に随分教えられた。
- 広い視野で学生と演習を進めていきたい。
- 具体的な今後の課題のいくつかをお示しいただいた。
- グループで活動させるといろいろな能力を身につけることができそう。
- 具体例を知ることができ、少しイメージをもつことができた。
- 1次情報、2次情報、1次資料（史料）、2次資料の見分け方、使い方については、今後、総合演習のみならず、他の授業でも指導したい。
- 評価基準、方法については今後きちんと考えないといけない。
- 今、保健体育でやっている総合演習はテーマ設定、グルーピング、教員の位置等、なかなかよいと思う。が、情報の取り扱い、資料の取り扱いについてはやはり問題があり、今後改善を促していきたい。
- シンポジウム③の事例を伺い、看護学科の「死生学演習」（生きること、老いること、病むこと、死ぬことを5～6人のウループで学習する）によく似ていると感じた。これは体験・実験・文献活用・調査など色々とりくんでいる。毎学年、各グループの成果を1冊の冊子にまとめている。したがって、看護学科の「総合演習」は教職教育に必要かつ看護教育の中で不足している児童・生徒の生活に特化したテーマを扱う方が効果的と感じた。
- 資料について佐野先生の「一次資料、二次資料の区別」というコメントが後に残った。
- いつもテーマの設定にたいへん苦勞しますので、「共通テーマ」の設定はたいへん参考になりました。
- 深田先生が言われた「テーマは決めたがQがない。何しよう」という状況は毎年感じており、Qがないまま何かをしなければならぬからテーマを決めるというやり方は何とかしてやめたいです。それくらいなら教員がもっている探究心と手法を学生と一緒に実地で調査研究等する方がはるかに総合力がつくと思う。過去に沖縄大学で宇井純氏が沖縄の水問題を半期かけて学生とともに調査、実験し、まとめ、発表させる内容の総合演習を行っており、感銘をうけました。あのような総合演習をやってみたいし、学生も学びの実感が大きいと思います。
- 現在、本学部で行われている総合演習の実態や課題（評価 etc.）について認識することができたことはよかった。評価については今後一定の評価方針、基準等を明確にしていくことが求められるのではないか。
- 他の専攻の取り組みを知ったことは、今後参考になりました。特に幼児教育の取り組みは刺激になりました。
- 探究活動、情報活動、表現活動が示唆的であった。

- 特に深田先生の発表で、上級生の活動を下級生が知り、次への意欲を高めていく方法は、とても刺激を受けました。専修レベルで行うメリットはこういう点にあるかなと思います。
- 種々の形の総合的な学習が行われていることを知ることができました。
- 学外とのアクセス、他学年との関係の支店の有効性がわかった。
- メインテーマとサブテーマという設定も面白い。今後試したい。
- 4回生の活用は取り入れたい。
- 十分に趣旨を理解できず、授業を運営していたことを反省した。趣旨とねらいをまとめていただき、少し理解できた。
- 理科教育、家政教育、生活環境コースの現場の教員を招いて授業を展開している点、とても参考になった。
- 学生が自主的にやっていること。
- 他講座の取組みが見られて有意義であった。
- 前年度の発表を紹介する形でイントロダクションとしている例があり、初回の授業内容や発表会の実施方法について学べる点があった。
- 他教科、専修の取組みを知れたこと。
- 評価の一事例を聞いたこと。
- 指導方法について参考になりました。
- 専門性(教師)と支援とのズレがある場合の難しさ。
- 共通テーマを設定することは試してみてもよいと思った。
- 学生が自主的にとりくめるテーマの設定と調査活動
- ディスカッションを効果的に取り入れる。
- 実地の見学・参加（実地指導）

## II. 「総合演習」について、現在疑問に思っていること。

- テキストがない。
- 何故地球的視野なのか、そこが教員としてどのように必要なかが本当にこなせない。
- 総合演習をやる3年後学期はけっこう忙しい学生もいる。
- 単なる15コマの授業でどこまでするのか。
- 考え方を学ぶこと、視野を広げること、自己批判や自己の外の世界を批判的にながめること、生きてゆく力を身につけることとどうリンクしているのかが、まだわからない。
- テーマ設定とそれについての支援は本当に難しい。
- 担当する教員の力量で効果はかなり違うのでは。
- 実際に行うには専任の方が必要なのではないかと思う。
- 評価については各専修・コース担当教員に委ねられているが、それでよいのか。ただ出席しているだけで「優」をつけてよいのか？
- 国語力不足は深刻です。すぐに解決はできないだろう。
- 「総合演習」として「死生学演習」を読替できないだろうか。
- 卒論につながるという位置づけには疑問。
- グループはテーマを設定することで深まるが、広くさまざまな現代的課題に出会うという経験ができ

ない。

○「総合的な学習」と「総合演習」は関係ありなのか？もともとはあったとしても、つなげる必要はないのではないか。「総合的な学習」は「教科」との堆肥の側面が強い。「教科」の枠でとらえきれない学習。「総合演習」は教員となる学生の視野を広げるという面を重視したい。つまり、人間力の育成。「総合的な学習」のための準備は「教職教養課題特講」等でやるべきでは。

○教員がどの程度かかわるべきか、ということで毎年悩んでいます。

○内容に関して、担当教員が専門の立場で探究のための適切な指導ができないようなテーマでは、大学生が行うにふさわしい深いレベルの指導ができないということ。専門に特化しないのだというが、報告やアンケートをみると大学生の探究レベルとしては浅すぎるものが多いように思う。テーマの質をもっとたよりにして試行錯誤してみた方が教育効果の高いものがでてくるのではないか。例えば、ミニ卒業研究のような探究型テーマで教員が専門性を生かして指導する。ただし、実地に触れる体験を入れたり、専門の枠をこえる視野を入れる等が望ましいという条件をつける。

○「人類に共通するテーマ、社会全体に関わるテーマ」を捉えるとあるが、教育学部の特徴、専修・コースの独自性を生かすようなテーマ設定はどの程度許容されるのか。

○本来の総合演習の目的に従うならば、現在のように専修・コース別に実施する必要がないのではないか。

○学校現場での指導を意識した内容を盛り込むべきなのか？

○もっと下の学年で全学部体制で実施すべきだと思います。

○総合的な学習の時間と本科目の関係がよくわからない。→リンクすべきカリキュラムなのかどうか。

○専修単位での実施はやめた方がよい。

○「総合的な学習の時間」に特化してはいけない。

○課題解決学習は増えている。「総合演習」がそれだけで満足してはいけない。

○カリキュラムの中できちんと位置づけることが必要。

○他の授業でできる内容も（いくつかの専修についてアンケートを見る限りにおいては）含まれているのではないか。なぜ「総合演習」なのかをもう少し考えよう。

○内容をそれぞれ見れば、一つ一つは似たりよつたりの活動がどの専修・コースにもあることは、各専修・コースの専門性自体あまり問われない学生の実情もあるなぁと感じました。

○文献等の調べ学習を負担と感じている学生は、3年前期までのわれわれ教育学部全体の教育力のなさだと痛感しました。個人的に少しずつ取り組んでいきたいと思います。

○講座ごとに分けて行っていることに、はたして意味があるのか。教員の都合で分割されているだけなのでは？

○これは「総合的な学習の時間」に関することだが、考える力のようなものを通常の教科から養えないという発想そのものが問題である。個人的には即中止にすべきと考える。

○3年次後期開講であるが、より有効に授業展開を行ううえで3年時前期までに何らかの情報提供を行う必要があるのではないかと、この点について考えていきたい。

○教員を志願する者が対象となるべき授業であるが、実際、免許を取得するための授業受講となっている現状がある。多数の学生を抱えている教室や新課程では問題があると思う。専修や課程を超えた授業運営はできないか？

○担当していないの、特になし。

○グループワークの際に年度により学生によって必要となる支援が変わることで、支援のあり方について

て考えさせられることが多いが、教員間で十分な話し合いや検討をする時間がない。

○経費面でのサポートがない。

○「総合演習」のねらいと学生の活動がマッチしておらず、悩みながら指導している。最初のガイダンスがとても重要であると再認識した。

○学生の努力に対して取得単数は少ない（2単位）。

○教養審答申のみ独断偏見のもと精読し、（とかく狭い「教育」に閉じこもりがち）教員に広い視野をもたせることが総合演習の目的ではないか。関連していると思うが、「総合的な学習の時間」の授業準備ではないはずと固く思っていました。しかし、免許法施行規則第6条七を呼んで「幼児、児童又は生徒を指導するための方法及び技術を含むものとする」があることに気づいた。その意味で誤解が正された。ただ、「狭い視野からの脱却」と「授業」を意識することと矛盾はないか。疑問は深まるばかりである。

○文科省が出している定義があいまい。小中高と同じように「結局、総合とは何かよくわからない」と感じる教員が多いのではないだろうか。

○総合演習で育てようとする力は、他の授業、教育実習、地域連携実習などで育てられるとも考えられる？意義の大きな演習にはなりうると思う。

### Ⅲ. その他

○3人のシンポジストの先生方が要点を整理して発表されたので、実にわかりやすく好印象であった。

○日ごろのプレゼンテーション、授業における話し方(自らの話し方)など、(私が)猛省するほど、3人の先生方の発表は参考になりました。

○「総合的な学習」と関連していると共通性。

○実習に対して、どの教科もこの総合的な学習の時間に積極的に参加するという姿勢がなぜ出てこないのか。

○授業の工夫・進め方はたいへんよいと思いました。テーマについては、一部趣旨に合わないものもあるのではないか。

○学生数は決して多くないのに、担当者(教員)が1人というところがあるのは驚きである。

### ※. 次回のFDシンポジウムで取り上げてほしいテーマ。

○授業公開の発展は？

○総合演習 part2

○成績評価

○「教育実習における学生の資質の課題」にみる教育学部教師教育の問題

○新しく立ち上がっている科目、立ち上がろうとしている科目(特に教職)についてのFDが欲しい

○教員養成と教科専門科目との関係

○学生の内発的動機付けについて

○初年次科目への取り組み